

博物館へ期待することと友の会の役割

岐阜県博物館 友の会副会長

河合 徹



博物館が開設されて四十七年の時がたっています。この場所は道路交通の便が良く、十分な駐車場が確保され、かつ公園内にあり町中とは隔離されていますので、安全に親子で過ごせる場所かと思えます。周囲の山にも木々や野草、鳥たちが群生しすばらしい環境だと思えます。

今年の行事の内容を見ますと、親子連れで参加できるもの、専門的な講師による講演会、実体験によるけんぱく教室、広く県民のコレクションや生涯学習活動の発表の場であるマイミュージアムギャラリー、そして年間数本計画される特別展・企画展、自然科学系の常設展とまさしく広く県民の各層に向けての生涯学習活動の場を提供いただいています。



▲マイミュージアム展示

県図書館や岐阜大学と連携された企画展や、広く県内各地を会場にした展示をされていることです。この春には図書館と飛騨高山まちの博物館で行われました。これは、博物館から遠くても各地元で観覧できる良い機会だと思えます。また、三重県総合博物館との交流企画も毎年楽しみにしています。

六月の講演会は「きのこの魅力」と「小惑星探査機はやぶさ2の冒険 世界初の挑戦とその成果」でした。前者は我々の身近にあるテーマを話され、後者はちょうどはやぶさが持ち帰ったサンプルの新聞発表をされたときに重なり、興味深く拝聴しました。どちらの講演会にも何組かの親子が参加し、終了後の質疑には子どもたちが積極的

に質問していました。

現在、友の会には約二五〇名の会員が登録されています。私は博物館の行事に積極的に参加しながら、発行しておられるチラシなどを利用して自分の周りの人にPRしていこうと思います。現在開催中の特別展「発見！いにしえの岐阜」は興味がありそうな知人や関

係者が多くいるため、友の会事務局に依頼してチラシを取り寄せ宣伝しました。

最後に八月六日の天草の御所浦白亜紀資料館の学芸員さんによる恐竜の講演会へ行った時の、道中での話をします。土曜



▲講演会のようす

日や日曜日に博物館へ行くと、芝生広場で遊んだり、博物館へ行く途中だったりする親子連れをよく見かけるようになりました。この日も小さい子どもを連れた親子連れに会いました。坂道に入るところで、子どもがケープブルカーの前で乗りたそうな顔をしていました。両親は乗り場口ではたして料金はいくらだろうかと二人で話しておりました。私が通りかかりましたので、無料だと言うとにっこり微笑んで私にお礼を言ってくれました。それでそのあと、大人は無料だけど子どもは五〇〇円ありますよと冗談を言いましたら、今度は夫婦で声をあげて笑ってくれました。若い親子が大いに博物館を利用してくださることを願って原稿を閉じたいと思います。

「発見！いにしえの岐阜 ー弥生・古墳・古代ー」

岐阜県博物館 学芸部 近藤 大典

1960年代以降、全国的に開発や史跡整備に伴う発掘調査が数多く実施され、膨大な考古学的成果が蓄積されてきました。岐阜県下においても重要な“発見”が相次いでいます。それらの“発見”は、今から50年前に刊行された『岐阜県史 通史編 原始』（以下、『県史』と略称する。）の記述と合わせてみることで、その重要性がより鮮明となります。

例えば、海津市に所在する円満寺山1号古墳（『県史』当時は「円満寺山古墳」と呼称されていた。）は、『県史』において「岐阜県におけるもっとも古い古墳」とされています。しかし、その後、全国的に古墳の始まりに関する研究が深まるとともに、一方で県内においても円満寺山1号古墳に先行する古墳がいくつも発見されるなど、調査・研究が大きく進展しました。それによって、円満寺山1号古墳は、古墳時代前期の築造という点は変わりありませんが、より古い古墳の発見により、現在では岐阜県におけるもっとも古い古墳ではなくなっています。もちろん、円満寺山1号古墳の価値が変わるものではありません。しかし、この50年間で、『県史』のころの理解は、新たな“発見”によって、様々な分野で更新されてきているという一つの例といえます。

本特別展では、県内の多くの発掘調査成果の中から選りすぐりの“発見”を出土品によって紹介するとともに、『県史』以降、調査・研究が進んだ弥生時代末から古墳時代初めの墳墓・古墳にも特に注目し、あらためて岐阜の歴史に思いをはせる展覧会としたいと考えています。

会場での見どころは多々あります。ここでは2点紹介します。

1点目として、先日、国史跡指定の答申が出た富加町の夕田墳墓群や、国史跡指定5周年を迎える大垣市東町田墳墓群など、最近話題となった遺跡を含め、過去50年の間に知られた“発見”をその遺跡の出土品を見ながら振り返ることができます。

2点目として、銅鐸や三角縁神獣鏡などの銅鏡をはじめとした金属製品、鍬などの農具や建物の一部などの木製品など、珍しい出土品の実物を見ることができます。

ぜひ、会場に足を運んでいただき、いにしえの岐阜の姿を示す出土品の数々をご覧くださいと思います。



▲円満寺山1号古墳出土 三角縁神獣鏡(当館蔵)



▲夕田茶臼山古墳(画像提供:富加町教育委員会)

「パレオアート作品展 ―二人のパレオアーティスト―」

岐阜県博物館 学芸部 高津 翔平

地質時代に生息していた生物を古生物と呼びます。古生物の存在は、通常、見つかった化石を通して知ることが出来るため、その生きた姿を見ることはできません。一方で、遠い昔よりその原始的な姿をほとんど変えることなく今も生き続けている種もわずかながら存在し、生きている化石とも呼ばれています。これら化石種や現生種などをもとに古生物の生きていた姿を再現することを古生物の復元と言います。

古生物の復元を行うのに十分な保存の良い化石が得られるケースはとても少なく、ほとんどの場合は断片的な化石をもとに復元作業が行われます。そのため、より正確な復元像を形作るには多方面にわたる多くの情報が求められます。化石として残された貝殻や骨、歯などの硬組織や、皮膚や羽毛などの軟組織はもちろん、それらから推測される古生態学的な特徴に加え、現生種の骨格や筋肉、内臓、表皮などの解剖学的特徴との比較など、最新の研究成果や科学的根拠が古生物の復元像を限りなく真実へと近づける手助けとなります。

古生物の復元を担う画家や作家などの専門家(アーティスト)をパレオアーティストと呼びます。同じ古生物の復元像にも作品の制作年や制作者によって大小様々な違いが見られることが多々あります。これは断

片的な情報だけでは、古生物に対する解釈が異なってしまうためです。そのため、復元を担うパレオアーティストは多くの文献や資料をもとに研究者や監修者と議論を重ねることで、科学的に正確な復元を試みています。また研究成果の積み重ねや分析技術の進歩により、古生物の得られる情報が増加し、より正確になった結果、その姿が更新されることも珍しくありません。古生物の復元像の変化は決して消極的なものではなく、その変化の過程を通して、研究の進展や復元に込められたパレオアーティストの努力と専門性の高い技術力を知ることができます。

本特別展では、古生物の復元作品として、小田隆氏(画家・イラストレーター)が制作された古生物復元画の中から、三重県総合博物館が所蔵する作品約150点と、徳川広和氏(古生物復元模型作家)が制作された古生物復元模型のうち、個人蔵の作品約65点をそれぞれ作品展示します。これらの作品を通して、古生物の科学的な側面だけでなく、彼らの生き生きとした姿を感じるとともに、芸術作品(アート)としての技術や価値など多方面から展示を楽しんでいただけますと幸いです。※展示予定の作品は都合により変更となる場合があります。

左…ティラノサウルス3体(制作…徳川広和)
右…アロサウルスvsステゴサウルス(制作…小田隆)



「岐阜県の野生動物:身近で多様な「隣人」たち」

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

標高0mから3000mまで、県土の約80%を占める広大な森林と、多数の河川に恵まれた岐阜県は自然豊かな地域であり、さまざまな調査・研究によって植物相・動物相が明らかにされています。しかし、身近な野生動物については、特産品である淡水魚のアユや獣害を引き起こすイノシシ・ニホンジカなどへの関心は高いものの、地域の生態系を構成する多様な小・中型哺乳類や爬虫類、両生類、あるいはエビやカニなどの小動物のことはあまり知られていません。

そこで、私たちの身の回りの「動物」、今回は特に哺乳類・爬虫類・両生類・十脚類(エビやカニ)に焦点を当て、岐阜県内の野外で確認された外来種を含む全113種の写真、標本、およびそれらに関する調査・研究についての展示を行います。

岐阜県の自然の特色と現状、外来種の問題等について広く知っていただき、地域の自然を理解した上でのまちづくりや、生物多様性の保全に貢献することができればと思います。



▲ニホンカモシカ(撮影:楠田哲士)

- 会 期: 10月28日(金)~12月9日(金)
- 会 場: 岐阜大学図書館2階エントランスホール
(岐阜市柳戸1-1)
- 入館料: 無料

※岐阜大学図書館の開館日時に準じて開館しますので、岐阜大学図書館ホームページ (<https://www.lib.gifu-u.ac.jp>) で確認してお出かけください。

百年公園の哺乳類たち

岐阜県博物館 友の会 籠橋 数浩

2022年1月から本館3階自然展示室2で、百年公園内で撮影された「二匹のキツネ」「樹皮をかじるニホンリス」の2本の動画(長さは各1分間ほど)が展示されています。そのうち「二匹のキツネ」は、冬、キツネが二匹、とっくみあいをしているような動画で、岐阜北高校自然科学部の生徒が、博物館高校生サポーター活動の中で撮影しました。

岐阜県博物館では、環境省のモニタリングサイト1000里地調査(通称、モニ1000)に取り組んでおり、その調査の1つとして赤外線センサーカメラを用いた「中・大型哺乳類」調査がおこなわれています。それに岐阜北高校自然科学部は2014年度から高校生サポーターとして参加しています。

モニ1000ではカメラ3台で動物を静止画撮影します。生徒はその設置・回収・種類確認をしつつ、それとは別に部活動でカメラ5台をモニ1000カメラから少し離れたところや、タヌキのため糞場所に設置しています。撮影した動画は、モニ1000の静止画で種類が判別できないときの参考資料として、またユニークな行動の資料として随時、博物館に送っています。これまで哺乳類は12種類撮影されました。タヌキのため糞場所での行動、キツネのじゃれあい、イノシシやアライグマの家族など興味深いものが多いです。ニホンカモシカが撮影されたときは、百年公園内での初記録だったので博物館発行の調査研究報告に投稿させていただきました。

今後も撮影を続け、生徒の活動発表の一つになればと思っています。



▲自然展示室2にて

マイミュージアムギャラリー 第5回展示
「パッチワークキルト展—郷土愛を布に託して—」
令和4年11月12日(土)～12月4日(日)

岐阜県博物館 学芸部 浅野 伸保

令和4年度の第5回目は、土屋久代さんらによる「パッチワークキルト展—郷土愛を布に託して—」を開催します。

土屋さんがパッチワークキルトに出会ったのは35年前です。その時の感動が、今でも制作を続ける原動力となっています。糸で布と布をつなぐ作品は心を豊かにしてくれ、それと同時に人との繋がりを深めてくれます。パッチワークキルトがもたらした縁のある生徒さん達と共に郷土愛を布に託した独自のデザインで、ふるさとも感じる色彩豊かな作品に仕上げています。

今回は土屋さんが主宰するふれあい関教室のパッチワークキルト作品を紹介します。



▲作品例

教育普及係より

「リモート授業」の実施

岐阜県博物館 学芸部 星野 友多

令和3年度も新型コロナウイルスの影響は大きく、団体利用は99団体5,325人と、博物館入館者総数の14%弱(コロナ前は20%以上)でした。コロナ禍で団体利用率が低迷し、博物館と子どもたちの距離が開いてしまっている中、学校にいても博物館を利用してもらいたいと願い、「リモート授業」を実施しました。

リモート授業はZoomやTeamsで学校と博物館をつなぎ、オンラインで博物館の展示物を見たり、解説員の話の聞いたりして学習を進めます。写真は小学校6年生向けに、社会科「大昔の人々の暮らし」という授業を行っている様子です。県内各地から出土した土器や石器を通して、子どもたちは教科書にはない岐阜県の縄文・弥生時代の様子を深く理解することができました。また、子どもたちはリモートであっても、元気に



▲社会科の教科書を広げて

反応したり、意欲的に発表したりと、離れていても同じ空間の中で授業をしているようでした。

岐阜県博物館の「強み」は、県内各地の資料が収蔵・展示されていることです。学習指導要領にも「博物館の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財について…」とあるように、学校現場で岐阜県博物館が担う役割は年々大きくなっています。そんな期待に応えることができるよう、そしてコロナ禍だからこそ求められる、リモート授業を通した「新しい博物館の利用法」を模索していきたいと思います。

近畿日本ツーリスト株式会社 岐阜支店

058-265-2203

岐阜県博物館からのお知らせ

10月～2月の展示・行事のご案内

◆特別展

「発見！いにしへの岐阜 ー弥生・古墳・古代ー」
9月16日(金)～11月13日(日)
※詳細は本誌2ページに紹介してあります。

◆博物館・岐阜大学連携企画展

岐阜県の動物
「岐阜県の野生動物 身近で多様な「隣人」たち」
会場は岐阜大学図書館
10月28日(金)～12月9日(金)
※詳細は本誌4ページに紹介してあります。

◆特別展

「パレオアート作品展 ー二人のパレオアーティストー」
12月9日(金)～2月26日(日)
※詳細は本誌3ページに紹介してあります。

◆企画展

「天下人 家康と美濃の諸将」
2月4日(土)～3月19日(日)

◆マイミュージアムギャラリーの展示

「ねお展 アジール(自由領域)であり続ける地域の
これまでそしてこれから」
10月1日(土)～10月30日(日)
「パッチワークキルト展 ー郷土愛を布に託してー」
11月12日(土)～12月4日(日)
※詳細は本誌5ページに紹介してあります。

「土岐石 美の世界
樹木化石から色彩豊かな土岐石へ」
12月17日(土)～1月22日(日)

「おひなさまのセカンドライフ 福よせ雛」
2月4日(土)～3月19日(日)

◆博物館展覧会・催事の変更について

年間リーフレット「展示・催し物案内」からの変更
10月23日(日)「百年公園で秋を見つけよう」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、変更があることがあります。ホームページ、ツイッターまたはお電話でご確認ください。

友の会事務局からのお知らせ

★令和4年度後期友の会の主な活動について

○会 議

- ・10月13日(木) 秋季理事会
- ・3月11日(土) 会長・副会長会議
- ・各種委員会

★「七草がゆを食べよう」について

「七草がゆを食べよう」(令和5年1月7日予定)の実施の可否については、新型コロナウイルス感染状況を考慮して慎重に検討していきます。

★探訪の旅について

今年度内の実施は見合わせ予定です。

★図録の刊行について



「骨のあるやつ
改訂版」4月



「発見！いにしへの岐阜 ー弥生・古墳・古代ー」9月
※「パレオアート作品展
二人のパレオアーティスト」(12月発行予定)
※会員の皆さまは一割引でご購入いただけます。

★会報について

皆さまの声が伝わるような会員相互で作り上げる会報に高めていくために寄稿をお待ちしています。

★会員数のさらなる拡大について

友の会活性化のため、会員の拡大を願っています。会員のみなさまご自身も会員特典を利用して博物館をご活用していただくとともに、友の会ならびに博物館の活動にご支援をいただければと思っています。

★ミュージアムショップについて

各種グッズますます充実してきました。ぜひご利用ください。会員のみなさまには割引価格でご利用いただけます。